



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報リテラシー	2	○	○	○	○						
統計学入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
統計学入門	4-2アルゴリズム基礎		
統計学入門	4-4時系列データ解析		
統計学入門	4-7データハンドリング		
統計学入門	4-8データ活用実践(教師あり学習)		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・人間の知的活動とAIの関係性「情報リテラシー」(12回目) ・数理・データサイエンス・AIやデータを起点としたものの見方「統計学入門」(1,9回目)
	1-6 ・AIを活用したビジネスモデルについて近年のAI技術の動向や事例「情報リテラシー」(12回目) ・AI最新技術の活用例「統計学入門」(1,9回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「統計学入門」(7回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「統計学入門」(7回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「統計学入門」(7回目)
	1-3 ・データ・AIの活用領域「情報リテラシー」(12回目) ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「統計学入門」(1回目) ・仮説検証「情報リテラシー」(9回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、関係性の可視化「統計学入門」(7回目) ・データ解析: 予測、パターン発見、最適化、シミュレーションなど「統計学入門」(10,11回目)
	1-5 ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決)

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ELSI、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)「情報リテラシー」(1回目)</li> <li>・データ・AI活用における負の事例紹介「情報リテラシー」(1回目)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)「情報リテラシー」(1回目)</li> <li>・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシー」(1回目)</li> </ul>
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表値の性質の違い「統計学入門」(2,3回目)</li> <li>・データのばらつき(分散、標準偏差)「統計学入門」(5回目)</li> <li>・データの種類(量的変数、質的変数)「統計学入門」(7回目)</li> <li>・相関と因果(相関係数、擬似相関)「統計学入門」(8回目)</li> <li>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「統計学入門」(13回目)</li> <li>・クロス集計表「統計学入門」(14回目)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの比較(条件をそろえた比較)「統計学入門」(5,6回目)</li> <li>・データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ)「情報リテラシー」(11回目)</li> <li>・データ表現(折れ線グラフ、散布図)「統計学入門」(8回目)</li> <li>・データの図表表現(チャート化)「統計学入門」(13回目)</li> <li>・不適切なグラフ表現(不必要な視覚的要素)「統計学入門」(13回目)</li> <li>・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「統計学入門」(14回目)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの集計(和、平均、数え上げ)「情報リテラシー」(8,9回目)</li> <li>・データの集計(和、平均)「統計学入門」(2,14回目)</li> <li>・データの並べ替え、ランキング「統計学入門」(2回目)</li> <li>・データ解析ツール(スプレッドシート)「情報リテラシー」(8回目)</li> <li>・表形式のデータ(csv)「情報リテラシー」(8回目)</li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンスおよびAIについて、その活用方法と留意事項を知る。  
与えられたデータに対して、基本的なデータ分析をおこない、統計的推測を得るといった基礎的な能力を習得する。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(令和6.2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 1676人 女性 677人 ( 合計 2353 人 )

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済学部	646	150	600	148	63											148	25%
経営学部	720	150	600	213	63											213	36%
法学部	549	150	600	110	13											110	18%
人間生活科学部	438	180	720	88	30											88	12%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	2,353	630	2,520	559	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	559	22%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人
- ② プログラムの授業を教えている教員数  人
- ③ プログラムの運営責任者  
 (責任者名)  (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)  
  
 (責任者名)  (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 名古屋経済大学全学教育推進センターは、学長を中心とした、大学全体における教学マネジメント体制を確立し、各学部の教育活動について、教育課程の編成に関する全学的な方針の策定・検証・評価を行うことにより、本学教育の充実及び発展を図ることを目的としており、学士過程における、共通科目群、全学教育で行う教育に関する企画、立案及び実施も行っている。本プログラムについては、学務総合センターと協働しながら改善・進化させるための体制を構築し、履修・修得状況の確認や改善、授業評価アンケート等を活用した自己点検を行いながら、学生にとってより良い環境の整備を進める。

- ⑦ 具体的な構成員
- 【名古屋経済大学全学教育推進センター】**  
 (1) 佐分 晴夫(学長、人間生活科学部長)  
 (2) 富岡 仁(教学担当副学長)  
 (3) 佐藤 正之(経済学部長)  
 (4) 谷川 毅(経営学部長)  
 (5) 清水 裕樹(法学部長)  
 (6) 大谷 尚(センター長、人間生活科学部特任教授)  
 (7) 人見 浩司(副センター長、経済学部特任教授)

**【名古屋経済大学学務総合センター】**  
 (1) 萩原 聡央(センター長、法学部教授)  
 (2) 佐藤 直史(副センター長、法学部教授)  
 (3) 串田 弘美(学務総合センター学務部教務担当副部長)  
 (4) 新里 智之(学務総合センター学務部副部長)  
 (5) 江坂 美咲(学務総合センター学務部教務担当主査)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	22%	令和6年度予定	28%	令和7年度予定	36%
令和8年度予定	39%	令和9年度予定	42%	収容定員(名)	2,520

具体的な計画

本プログラムを構成している「情報リテラシー」は全学必修であり、1年次の前期に自動履修登録されるので履修率は100%になる。再履修クラスについても自動登録されるようにしている。「統計学入門」については選択科目であるが、複数開講しており、学部・学科に関係なく学生全員が受講可能となる時間割を組む計画をしている。  
また、新入生ガイダンスや学務システムでの掲示板機能などを活用して、周知を徹底する。また令和6年度より、副専攻:AI・データサイエンスコース(応用基礎レベル)を開設することより、AI・データサイエンス教育を充実させ、履修者数の向上を図る。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「情報リテラシー」は全学必修であり、1年次の前期に自動履修登録されている。「統計学入門」については異なる曜日で複数開講され、必修科目等との重複開講を防ぐよう調整がされており、全学生の受講が可能となっている。  
また、事務組織においては、全学教育推進センターを中心として、履修方法等の指導(教務)、学内外への広報活動(広報センター)等を行って、全学の学生が履修しやすい体制を構築している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学時のオリエンテーションにおいてだけではなく、1年次前期に全学生が受講する「情報リテラシー」の授業内においても本プログラム認定制度について説明し、後期に開講される「統計学入門」の履修を案内し、推奨している。また、後期の履修登録直前に、教務から全学生へ本プロジェクトについての案内、推奨のメールを送信している。  
また、令和6年度から開設する副専攻:AI・データサイエンスコースにより、AI・データサイエンス教育を強化していく中で、リテラシーレベルがAI・データサイエンス教育のファーストステップであることをWebサイトやチラシなどを通じて周知していく。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

授業には学生アシスタントを配置し、困りごとのある学生や質問がある学生を個別対応でサポートしている。講義内容の理解に問題があるような学生が特定できたら、担当教員からも声かけし、授業時間外においてもフォローするようにしている。  
学生からの質問や相談について、担当教員がオフィスアワー、メールやLMSのチャット機能などで対応し、より多くの学生が修得できるようサポートしている。  
また、情報教室のPCは自習用として開放しており、学生が自由にPCを使用できる環境を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

担当教員と学生アシスタントで授業時間内での質問に個別対応している。また、担当教員のメールアドレスをシラバスや授業を通して周知し、メールやLMSのチャット機能で授業時間外でも困ったことがあったらなんでも質問、相談をすることを推奨し、授業外でも対応する仕組みが整っている。各教員のオフィスアワーを利用して、研究室で指導を受けることもできる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

名古屋経済大学全学教育推進センター

(責任者名) 大谷 尚 (役職名) センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本学において、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、2023年度より開設、既存の科目である「情報リテラシー」「統計学入門」を本教育プログラムの対象科目とすることにより、2023年度入学生から履修することのできるプログラムとなっている。</p> <p>2023年度の本プログラム対象学生の内、「情報リテラシー」を受講した人数は559名、「統計学入門」を受講した人数は186名となっており、全学部必修科目「情報リテラシー」に比べ、「統計学入門」の履修者数が少ない現状がある。今後は、プログラム履修の意義も含め、学生への周知を強化していく必要がある。</p>
学修成果	<p>本プログラムを構成する「情報リテラシー」「統計学入門」の2科目どちらについても、LMS(学習管理システム)への課題提出が毎回あり、その取り組み状況や授業内容の理解度をこまめに把握できるようになっている。学生アシスタントへも、どのような質問があったか、受講生はどのようなことで困っていたかなどの聞き取りを毎回行い、学生の理解度を確認している。さらに、成績評価や学期末に行われる授業評価アンケートを分析することにより、受講生の達成度や学修成果を確認することができる。授業評価アンケートの分析結果については、FD委員会と共有し、問題点があれば次年度以降の改善を検討している。</p> <p>令和5年度の「情報リテラシー」および「統計学入門」については、「この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか」という項目において、5段階評価での平均がともに4.6であり、多くの受講生が論理的または統計学的なものの見方を獲得できたことが推測される。また、「あなたはこの授業の履修(授業そのもの、予習、復習)に意欲的に取り組んだと思いますか」という項目でもともに4.5以上であったことから多くの受講生が意欲的に取り組んだことがわかり、学修成果が大きいことが期待できる。</p> <p>令和6年度開始の副専攻「AI・データサイエンス」(経営学部では数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベル申請予定)について、「統計学入門」の講義内で案内した際に興味を示した学生が多かったことから、この分野に関心を寄せるようになった学生がいることが伺える。このコース(プログラム)には現在までで計26名の学生が申し込み済み。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学では、教育の内容や方法を改善・向上させ、自己点検や評価を行うために全学部にFD委員会がおかれている。FD委員会では、本プログラム構成科目を含む全科目を対象に、毎学期末に対面での授業アンケートを実施している。そして、その結果を分析することにより、全学部の学生の理解度の把握をおこなっている。</p> <p>令和5年度の「情報リテラシー」および「統計学入門」については、「授業内容はわかりやすかったと思いますか」という項目では、5段階評価で平均がともに4.5以上であり、多くの受講生にとってわかりやすい授業内容であったことから、理解度も高いことが推測される。特に、「統計学入門」については「授業の速さや進め方は適切だったと思いますか」が4.6であったことから、授業の進め方や教え方はおおむね適切であったと判断され、多くの受講生が授業内容に理解が追いついていることが推測される。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>毎学期末に実施する授業評価アンケートを通して、後輩等他の学生への推奨度について推測し、確認している。本プログラムを構成する「情報リテラシー」「統計学入門」は、ともに満足度が高く、新しいものの見方や考え方を得られたという実感のある受講生が多いことが確認できる。自由記述欄へのコメントからも多くの学生が楽しんで受講し、講義内容にも満足していると考えられ、後輩等他の学生へも受講を推奨すると評価している受講生が多いことが推測される。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>令和5年度については、本プログラムの対象学生(全学部の1年生)559人のうち、リテラシーレベルを修了した学生が169人なので、修了率は約30.2%であった。これを上げるために今後も積極的な取り組みを行っていく。</p> <p>本プログラムを構成している「情報リテラシー」は全学部で必修であり、1年次の前期において自動履修登録されている。この科目については再履修クラスについても自動登録されるようにして、履修登録のし忘れを防いでいる。また、選択科目の「統計学入門」についても、入学時オリエンテーション、他の必修講義内、在校生オリエンテーション、教務からの一斉配信メールなどで履修を促す等、履修率向上に向けての計画が立てられている。</p>



自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムの修了者がまだ卒業していないので、進路、活躍状況、企業等の評価については把握できていない。今後それを把握するための卒業後調査について、具体的な検討をおこなっている。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>産業界からの要請を反映させる教育プログラムを実現していくために、本プログラムの講義内容についての産業界からの意見を収集することを検討している。キャリアセンターと連携をして、産業界が必要としているスキルセットを把握して、教育プログラム内容に反映していく等の計画をしている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>授業において、学生にとってなるべく身近なデータサイエンス活用事例を扱うようにしている。それにより、数理・データサイエンス・AIは机上の学問ではなく実学であるという認識をもつようになることが期待できる。また、座学に偏ることなく、コンピュータを使った実習等も適宜取り入れている。実際に手を動かし、計算結果、分析結果を得ることにより、新しい発見があることや先を予測することなどの楽しさを体験できるような授業内容にしている。このような実習を通じて、数理・データサイエンス・AIが広く社会に求められているということを実感し、これを学ぶ意義がわかるような授業を計画している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業において「分かりやすい」かを、こまめに確認するために、毎回の提出課題の出来具合の把握や、受講生への理解度についての聞き取り等を行っている。もし「分かりやすさ」に問題があれば、担当教員間で共有し、改善する体制が整っている。また、学生アシスタントからも随時聞き取りを行い、理解度に問題のありそうな学生を把握し、授業外においてもLMSのチャット機能などを使って個別にフォローしている。講義全体の内容・水準を落とすことなく、かつ、習得率を上げるために、個別対応にも力を入れている。また、学期末に実施される授業評価アンケートの「授業内容は分かりやすかったですか」という項目についてチェックを行い、問題があれば担当教員間で共有のうえ、次年度の授業内容や方法の改善に役立てる体制になっている。</p>

## シラバス参照（情報リテラシー）

開講科目名 Course	情報リテラシー(営1)/Information literacy
時間割コード Course Code	11304
開講所属 Course Offered by	大学共通/
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度/Academic Year 前期
曜限 Day, Period	火/Tue 1
開講区分 semester offered	前期/.
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 情報/GENERAL EDUCATION SUBJECTS Information
教室 Classroom	情報実習室 A
講義形式 Lecture Style	演習科目
授業の目標	<p>ワープロ（Word）を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト（Excel）によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。</p> <p>各自のノートパソコンを無線LANに接続し、メールの設定やOfficeソフトのインストールを行い、レポートや卒業論文を作成する準備を行う。</p> <p>ネットワーク社会で現実に行われている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル、ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。</p>
授業の概要	<p>情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノー</p>

## シラバス参照（情報リテラシー）

	トパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよび AI について、実例を見ながらその活用方法と留意事項を学ぶ。
評価方法	課題の提出状況で評価する。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>第1週 ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理</p> <p>第2週 ノートパソコン実習：無線 LAN の利用、電子メール、ソフトウェアのインストール</p> <p>第3週 ワープロ実習 1：文字の入力、文書の作成と整形</p> <p>第4週 ワープロ実習 2：テキストボックス、オブジェクトの貼り付け</p> <p>第5週 ワープロ実習 3：段組み、表の挿入</p> <p>第6週 ワープロ実習 4：ページ設定、ヘッダーとフッター</p> <p>第7週 ワープロ実習 5：SmartArt、図表番号</p> <p>第8週 表計算 1：縦横集計とセルの書式設定、数式の入力</p> <p>第9週 表計算 2：統計関数</p> <p>第10週 表計算 3：論理関数</p> <p>第11週 表計算 4：グラフの描画</p> <p>第12週 データサイエンスと AI 活用、データ活用の留意事項</p> <p>第13週 スライド作成 1：スライドの作成の基礎</p> <p>第14週 スライド作成 2：スライドショーの実行とプレゼンテーション</p> <p>第15週 スライド作成 3：特殊効果を利用したスライドの作成</p> <p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと。</p>
テキスト	例題 50+演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10/Office2019 対応版 定平誠，技術評論社
参考書	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含む
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	各自のパソコンに Office ソフトをインストールし、課題を作成する。 授業前に次回の範囲を予習し、授業中は課題を作成するという反転授業を行う。
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールにて対応する。

## シラバス参照（情報リテラシー）

フィードバックの方法		メールにて対応する。		
予習・復習等、準備学習の内容及び時間		毎回 2 時間の予習、2 時間の復習を行う。		
使用言語		日本語		
SDGs 17 の目標（1～10）				
SDGs 17 の目標（11～17）				
PROG リテラシーの要素				
PROG コンピテンシーの要素				
No.	回 Time	主題と位置付け（担当） Subjects and position in the whole course	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	1 回	ガイダンス：実習室の利用、レポートの提出方法、情報倫理、ELSI と情報セキュリティ	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備として Teams の使用方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。	
2	2 回	ノートパソコン実習	各自のノートパソコンを持参し、基本設定とソフトウェアのインストールを行う。学内無線 LAN への接続方法、電子メールの活用、Office ソフトウェアおよび Teams のインストールを行う。	
3	3 回	ワープロ実習 1	タッチタイピングの基本について学習する。また、Word による文書の作成と整形の基本を習得する。	
4	4 回	ワープロ実習 2	テキストボックスや基本図形など Word で標準で用意されているオブジェクトの貼り付けを行う。	
5	5 回	ワープロ実習 3	2 段組みの文章を作成する。文書内へ表を挿入し、セルの結合や削除などの操作を学習する。	
6	6 回	ワープロ実習 4	ページ単位で行う設定について学習する。またヘッダーとフッターの挿入・編集について学ぶ。	
7	7 回	ワープロ実習 5	SmartArt を活用する法補について学ぶ。図表番号の設定方法について学習する。	
8	8 回	表計算 1	表計算ソフト Excel のワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。簡単な縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、SUM 関数、オートフィル、絶対参照（割合）について学習する。	
9	9 回	表計算 2	統計関数（AVERAGE 関数、MAX 関数、MIN 関数）の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	

## シラバス参照（情報リテラシー）

10	10回	表計算 3	論理関数（COUNT 関数, COUNTA 関数, IF 関数, IFS 関数, AND 関数, OR 関数）の活用について学ぶ。	
11	11回	表計算 4	棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップなど、グラフの描画について学習する。	
12	12回	データサイエンスと AI 活用	AI について社会で起きているさまざまな変化やデータ・AI の活用領域について学習する。人間の知的活動と AI の関係性、AI が活用したビジネスモデルについて近年の AI 技術の動向や事例を調べる。また、ELSI、データ倫理（データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護）や情報セキュリティ（機密性、完全性、可用性）について学ぶ。	
13	13回	スライド作成 1	スライド作成ソフト PowerPoint の基本操作を学ぶ。テキストと図表の挿入方法を学習する。	
14	14回	スライド作成 2	スライドショーの実行とプレゼンテーションの方法について学習する。	
15	15回	スライド作成 3	スライドにアニメーションや画面の桐け糸効果を設定し、効果的なプレゼンテーションを行う方法を学ぶ。	

## シラバス参照（統計学入門）

開講科目名 Course	統計学入門／Introduction to Statistics
時間割コード Course Code	10250
開講所属 Course Offered by	大学共通／
開始年度・学期 Start Year・Semester	2023年度／Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水／Wed 3
開講区分 semester offered	後期／.
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	岡田 朋子
科目区分 Course Group	共通科目群 科学と自然／GENERAL EDUCATION SUBJECTS Science & Nature
教室 Classroom	6 5 A大講義室
講義形式 Lecture Style	講義科目
授業の目標	<p>エクセルの操作を通じて初歩的な統計学の概念を理解し、簡単なデータ分析ができるようになることを目的とする。</p> <p>◆知識・理解の領域 平均値などの基本的な統計量の意味を理解する。</p> <p>◆技能の領域 PC 操作に慣れ、表計算ソフトを使いこなせるようにする。</p> <p>◆態度・志向性の領域 データ・AI 活用領域の広がり（生産、消費、文化活動など）を知り、「データ分析ができ</p>

	<p>る」, 「データ活用ができる」人材が社会に必要であるという認識をもつ。</p> <p>◆思考判断の領域 データを起点としたものの見方, 人間の知的活動を起点としたものの見方を身につけ, 根拠のたしかな事実にもとづき統計学的に正しく推論することができる能力をもつ。</p> <p>◆関心意欲の領域 統計学の基礎を習得し, 自分でデータ解析をおこなう意欲をもつ。</p>
<p>授業の概要</p>	<p>対象とする受講生は, 数学や統計学の知識をもっていない, そして, エクセルの使用に慣れていない初心者とする。</p> <p>受講条件は, 教科書と「エクセルのインストールされた PC」を講義に持参することである。</p> <p>エクセルの作業によって授業を進めていく。</p> <p>自分のペースで作業を進めることができる。不明点があれば, 個別対応も可能。</p> <p>予備知識のない初心者でも十分理解できる内容であり, エクセルに数字を入力することからはじめる。</p> <p>はじめてデータサイエンスを学習する際の最初の授業として無理がないように, やさしい内容をゆっくり学習していく予定である。</p> <p>課題の作成は授業中に指導, 対話しながらおこなう。</p> <p>受講生の知識や理解度を毎回確認して, それに応じて授業内容を合わせる予定である。</p> <p>■この科目の位置づけについては, 本学 HP のナンバリングを参照すること。</p>
<p>評価方法</p>	<p>授業中にエクセルで作成した課題などを提出し, その評価の合計で総合評価する。</p>
<p>教員の指導に従わない以外の事由による失格基準</p>	<p>特になし</p>
<p>授業計画</p>	<p>詳細は授業計画詳細情報を参照のこと</p>
<p>テキスト</p>	<p>エクセルで学習するデータサイエンスの基礎（統計学演習 15 講） 岡田朋子 著 ISBN : 9784764960565（近代科学社）</p>
<p>参考書</p>	
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等</p>	<p>含む</p>
<p>アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容</p>	<p>エクセルを使ってグラフを作成したり, データ分析を行ったりなどの実習をおこなう。</p>

## シラバス参照（統計学入門）

実務経験のある担当教員による授業	該当しない			
担当教員の実務経験を活かした授業の内容				
質問への対応方法	随時対応 Teams のチャットでも対応 メールでも対応 (tomoko@nagoya-ku.ac.jp)			
フィードバックの方法	解説やフィードバックは授業中に行う。			
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各回の内容についての予習や復習をそれぞれ2時間行うこと。			
使用言語	日本語			
SDGs 17 の目標 (1~10)				
SDGs 17 の目標 (11~17)				
PROG リテラシーの要素				
PROG コンピテンシーの要素				
No.	回 Time	主題と位置付け (担当) Subjects and position in the whole course	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
1	1 回	社会におけるデータ・AI 利活用	授業内容の具体的な説明と準備。 社会で起きている変化を知り, 数理・データサイエンス・AI や データを起点としたものの見方を学ぶことの意義を理解する。 データ・AI 活用領域の広がり (生産、消費、文化活動など) や データ・AI 利活用における最新動向 (ビジネスモデル、テクノロジー) を知る。	
2	2 回	代表値 (平均値), データの並べ替え, ランキング	(下記の内容はすべてエクセルを使って学習する) 計算式を入力することによって, たし算, ひき算, かけ算, わり算をおこなう。 データを大きさの順に並べ替える。 データの合計をデータの個数で割ることによって平均値を求める。 平均値を関数で求める。	
3	3 回	代表値 (中央値, 最頻値), 代表値の性質の違い	データを大きさの順に並べ替え, 真ん中の値を求める。 最も頻繁に現れるデータを求める。	



## シラバス参照（統計学入門）

No.	回 Time	主題と位置付け（担当） Subjects and position in the whole course	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
4	4回	データの範囲, データの抽出	最大値と最小値を除いて平均値を求める。 最大値から最小値を引いて範囲を求める。 ピボットテーブルを使って集計する。	
5	5回	データのばらつき（分散, 標準偏差, 偏差値）, データ解析ツール, データ表現（棒グラフ）	データ分布のばらつきの大きさをひとつの数値で表すにはどうすればいいのかを考える。	
6	6回	データの比較（条件をそろえた比較）	それぞれ分布の様子が異なるデータの集合間のデータどうしを比較する。	
7	7回	データの種類（量的変数, 質的変数）, データ可視化（2軸グラフ, 関係性の可視化）	データの種類分けをする。 エクセルで折れ線グラフ, 散布図を作成する。	
8	8回	データ表現（折れ線グラフ, 散布図）, 相関と因果（相関係数, 疑似相関）	散布図を見て直線的な関係を確認し, その強さをひとつの数値で表す。	
9	9回	単回帰分析, 人間の知的活動を起点としたものの見方, 仮説検証, 原因究明, データ解析と推論	散布図を見て直線的な関係を確認し, 因果関係を想定する。 結果を予測する。	
10	10回	データ解析（最適化, シミュレーション）, 教師あり学習による予測	予測利益が最大になるような価格はいくらになるかを求める。	
11	11回	時系列データ, データ可視化, データ解析（パターン発見）	時間の経過順に並んだデータの周期的な動きを折れ線グラフで確認する。 期間を移動させながら平均をとり, データの動きをなめらかにする。	
12	12回	移動平均, 季節調整	季節に影響されないデータの動きを確認する。	
13	13回	データの分布（ヒストグラム）, ヒストグラムを作成する。	データを小区間ごとに分けて, その小区間に入っているデータの個数を数える。 ヒストグラムを作成する。	

## シラバス参照（統計学入門）

No.	回 Time	主題と位置付け（担当） Subjects and position in the whole course	学習方法と内容 Methods and contents	備考 Notes
		不適切なグラフ表現, 優れた可視化事例の紹介		
14	14回	データベース, データの集計（和, 平均）, データの図表表現（チャート化）	ピボットテーブルでクロス集計をおこなう.	
15	15回	データクレンジング（外れ値, 異常値, 欠損値の処理）	大きく外れている極端な値を見つける.	

2023

# 学生生活ハンドブック

学校法人 市邨学園

**名古屋経済大学**

## 5. 授業科目表

(経済学部 現代経済学科)

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		開講学年				卒業に必要な単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	各教科区分ごとの最低単位数	卒業要件
共通科目	情報	情報リテラシー	演	2		◎				2単位修得	必修を含め28単位以上修得
		情報 (Word)	演		2	○					
		情報 (Excel)	演		2		○				
		情報 (Power Point)	演		2		○				
	報	情報処理Ⅰ	講		2			○		8単位修得	
		情報処理Ⅱ	講		2			○			
	語	基礎英語Ⅰ	演	2		◎				2単位以上修得	
		基礎英語Ⅱ	演	2		◎					
		スキルアップ英語Ⅰ	演	2				◎			
		スキルアップ英語Ⅱ	演	2				◎			
		英語コミュニケーション	演		2		○				
		トピック対策英語Ⅰ	演		2		○				
		トピック対策英語Ⅱ	演		2		○				
		英語ライティング	演		2		○				
		英語リーディング	演		2		○				
		中国語入門	演		2		○				
	学	中国語初級	演		2		○			2単位以上修得	
		中国語中級	演		2			○			
		コリア語入門	演		2		○				
		コリア語初級	演		2		○				
		ポルトガル語入門	演		2		○				
		ベトナム語入門	演		2		○				
		スペイン語入門	演		2		○				
		健康スポーツと	健康生活と生涯スポーツ	講		2		○			
	目	文	生涯スポーツ実習Ⅰ	実		1		○			
			生涯スポーツ実習Ⅱ	実		1		○			
		化	多様な言語の世界	講		2			○		
			文学と現代	講		2			○		
			アジアの中の思想	講		2			○		
			アートと現代社会	講		2			○		
			犬山学入門	講		2			○		
			地理学Ⅰ(地誌を含む)	講		2			○		
社		地理学Ⅱ	講		2			○			
		心の科学Ⅰ	講		2			○			
		心の科学Ⅱ	講		2			○			
		日本の文化と社会	講		2			○			
		地域創生と文化遺産	講		2			○			
		ジェンダーと現代社会	講		2			○			
会	人間社会と文化形成	講		2			○				

【授業形態】 講…講義、演…演習、実…実験・実習・実技

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		開講学年				卒業に必要な単位数				
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	各教科区分ごとの最低単位数	卒業要件の数			
共通歴史	社会史	政治の世界	講		2			○			28	必修を含め		
		歴史との対話	講		2			○						
		情報と社会行動の科学	講		2			○						
		日本史	講		2			○						
		西洋史	講		2			○						
		アジア史Ⅰ	講		2			○						
		アジア史Ⅱ	講		2			○						
		アジア史Ⅲ	講		2			○						
		世界の中のアジア	講		2			○						
		交通と社会	講		2			○						
共通科学	科学と自然	イスラーム入門	講		2			○			28	単位以上修得		
		生活と数学	講		2			○						
		生活の中の科学	講		2			○						
		生命の科学	講		2			○						
		統計学入門	講		2			○						
		ブ文リ理	科学	科学と人間社会Ⅰ	講		2			○				
				科学と人間社会Ⅱ	講		2			○				
				科学と人間社会Ⅲ	講		2			○				
				環境共生の探究Ⅰ	講		2			○				
				環境共生の探究Ⅱ	講		2			○				
生命と倫理	講				2			○						
科目群	ゼミナール	全学ゼミナール	演		2			○			28	単位以上修得		
		体験型	体験型プロジェクト	演		4		○						
			キャリア	基礎力養成Ⅰ	講		2	○						
				基礎力養成Ⅱ	講		2	○						
				公務員・就職試験基礎力養成Ⅰ	講		2			○				
				公務員・就職試験基礎力養成Ⅱ	講		2			○				
				公務員・就職試験基礎力養成Ⅲ	講		2			○				
				公務員・就職試験基礎力養成Ⅳ	講		2			○				
				公務員・就職試験対策Ⅰ	講		2						○	
		公務員・就職試験対策Ⅱ		講		2				○				
特殊科目	特殊共通講義Ⅰ	講		[1]	○									
	特殊共通講義Ⅱ	講		[2]	○									
	特殊共通講義Ⅲ	講		[4]	○									
留学認定科目	海外研修Ⅰ			2	海外短期研修									
	海外研修Ⅱ			2										
	外国事情Ⅰ			2	協定大学との交換留学									
	外国事情Ⅱ			2										
	外国事情Ⅲ			2	海外大学への私費留学									
	外国事情Ⅳ			2										
合計				10	142									

【授業形態】 講・・・講義、演・・・演習、実・・・実験・実習・実技

単位数欄が [ ] の特殊科目は、講義題目・担当教員が異なるものであれば、複数の履修が可能な科目である。

## 5. 授業科目表

〔経営学部 経営学科〕

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		開講学年				卒業に必要な単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	各教科区分ごとの最低単位数	卒業要件
共通科目	情報	情報リテラシー	演	2		◎				2単位以上修得	共通科目群 32単位以上修得
		情報 (Word)	演	2		○					
		情報 (Excel)	演	2		○					
		情報 (Power Point)	演	2		○					
		情報処理Ⅰ	演	2			○				
	言語	基礎英語Ⅰ	演	2		◎				8単位修得	
		基礎英語Ⅱ	演	2		◎					
		スキルアップ英語Ⅰ	演	2			◎				
		スキルアップ英語Ⅱ	演	2			◎				
		英語コミュニケーション	演	2		○					
		トピック対策英語Ⅰ	演	2		○				2単位以上修得	
		トピック対策英語Ⅱ	演	2		○					
		英語ライティング	演	2		○					
		英語リーディング	演	2		○					
		中国語入門	演	2		○					
		中国語初級	演	2		○					
		中国語中級	演	2				○			
		コリア語入門	演	2		○					
		コリア語初級	演	2		○					
		ポルトガル語入門	演	2		○					
ベトナム語入門	演	2		○							
スペイン語入門	演	2		○							
健康スポーツ	健康生活と生涯スポーツ	講	2		○						
	生涯スポーツ実習Ⅰ	実	1		○						
	生涯スポーツ実習Ⅱ	実	1		○						
文化と社会	多様な言語の世界	講	2			○					
	文学と現代	講	2			○					
	アジアの中の思想	講	2			○					
	アートと現代社会	講	2			○					
	犬山学入門	講	2			○					
	地理学Ⅰ(地誌を含む。)	講	2			○					
	地理学Ⅱ	講	2			○					
	心の科学Ⅰ	講	2			○					
	心の科学Ⅱ	講	2			○					
	日本の文化と社会	講	2			○					
	地域創生と文化遺産	講	2			○					
	ジェンダーと現代社会	講	2			○					
人間社会と文化形成	講	2			○						

【授業形態】 講・・・講義、演・・・演習、実・・・実験・実習・実技

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		開講学年				卒業に必要な単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	各教科区分ごとの最低単位数	卒業要件
共通科目群	社会史	政治の世界	講		2			○			共通科目群 32単位以上修得
		歴史との対話	講		2			○			
		情報と社会行動の科学	講		2			○			
		日本史	講		2			○			
		西洋史	講		2			○			
		アジア史Ⅰ	講		2			○			
		アジア史Ⅱ	講		2			○			
		アジア史Ⅲ	講		2			○			
		世界の中のアジア	講		2			○			
		交通と社会	講		2			○			
	科学と自然	イスラーム入門	講		2			○			
		生活と数学	講		2			○			
		生活の中の科学	講		2			○			
		生命の科学	講		2			○			
	文理ハイブリッド	統計学入門	講		2			○			
		科学と人間社会Ⅰ	講		2			○			
		科学と人間社会Ⅱ	講		2			○			
		科学と人間社会Ⅲ	講		2			○			
		環境共生の探究Ⅰ	講		2			○			
		環境共生の探究Ⅱ	講		2			○			
	ゼミナール	全学ゼミナール	演		2			○			
		体験型探究型	演		4		○				
	キャリア	基礎力養成Ⅰ	講		2	○					
		基礎力養成Ⅱ	講		2	○					
		公務員・就職試験基礎力養成Ⅰ	講		2		○				
		公務員・就職試験基礎力養成Ⅱ	講		2		○				
		公務員・就職試験基礎力養成Ⅲ	講		2		○				
		公務員・就職試験基礎力養成Ⅳ	講		2		○				
		公務員・就職試験対策Ⅰ	講		2			○			
		公務員・就職試験対策Ⅱ	講		2			○			
	特殊科目	特殊共通講義Ⅰ	講		[1]	○					
		特殊共通講義Ⅱ	講		[2]	○					
特殊共通講義Ⅲ		講		[4]	○						

【授業形態】講・・・講義，演・・・演習，実・・・実験・実習・実技

単位数欄が [ ] の特殊科目は，講義題目・担当教員が異なるものであれば，複数個の履修が可能な科目である。

5. 授業科目表  
〔法学部 ビジネス法学科〕

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		開講学年				卒業に必要な単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	各教科区分ごとの最低単位数	卒業要件
共通科目群	情報	情報リテラシー	演	2		◎				2単位修得	共通科目群 30単位以上修得
		情報 (Word)	演		2	○					
		情報 (Excel)	演		2		○				
		情報 (Power Point)	演		2		○				
	情報処理Ⅰ	講		2			○				
	情報処理Ⅱ	講		2				○			
	語学	基礎英語Ⅰ	演	2		◎				8単位修得	
		基礎英語Ⅱ	演	2		◎					
		スキルアップ英語Ⅰ	演	2				◎			
		スキルアップ英語Ⅱ	演	2				◎			
		英語コミュニケーション	演		2		○				
		トピック対策英語Ⅰ	演		2		○				
		トピック対策英語Ⅱ	演		2		○				
		英語ライティング	演		2		○				
		英語リーディング	演		2		○				
		中国語入門	演		2		○				
	中国語初級	演		2		○			2単位以上修得		
	中国語中級	演		2				○			
	コリア語入門	演		2		○					
	コリア語初級	演		2		○					
	ポルトガル語入門	演		2		○					
	ベトナム語入門	演		2		○					
	スペイン語入門	演		2		○					
	健康スポーツ	健康生活と生涯スポーツ	講		2		○				
		生涯スポーツ実習Ⅰ	実		1		○				
		生涯スポーツ実習Ⅱ	実		1		○				
	文化と社会	多様な言語の世界	講		2				○	2単位以上修得	
		文学と現代	講		2				○		
		アジアの中の思想	講		2				○		
		アートと現代社会	講		2				○		
		犬山学入門	講		2				○		
		地理学Ⅰ (地誌を含む。)	講		2				○		
		地理学Ⅱ	講		2				○		
心の科学Ⅰ		講		2				○			
心の科学Ⅱ		講		2				○			
日本の文化と社会		講		2				○			
地域創生と文化遺産		講		2				○			
ジェンダーと現代社会		講		2				○			
人間社会と文化形成		講		2				○			

【授業形態】 講…講義, 演…演習, 実…実験・実習・実技



科目群	区分	科目	授業形態	単位数		開講学年				卒業に必要な単位数	
				必修	選択	1年次	2年次	3年次	4年次	各教科区分ごとの最低単位数	卒業要件
共通科目群	社会と歴史	政治の世界	講		2			○			共通科目群 30単位以上修得
		歴史との対話	講		2			○			
		情報と社会行動の科学	講		2			○			
		日本史	講		2			○			
		西洋史	講		2			○			
		アジア史Ⅰ	講		2			○			
		アジア史Ⅱ	講		2			○			
		アジア史Ⅲ	講		2			○			
		世界の中のアジア	講		2			○			
		交通と社会	講		2			○			
	科学と自然	イスラーム入門	講		2			○			
		生活と数	講		2			○			
		生活の中の科学	講		2			○			
		生命の科学	講		2			○			
	ブ文リ理ツハ	統計学入門	講		2			○			
		科学と人間社会Ⅰ	講		2			○			
		科学と人間社会Ⅱ	講		2			○			
		科学と人間社会Ⅲ	講		2			○			
		環境共生の探究Ⅰ	講		2			○			
		環境共生の探究Ⅱ	講		2			○			
		生命と倫理	講		2			○			
		全学ゼミナール	演		2			○			
		体験型探究	演		4		○				
		キャリア	基礎力養成Ⅰ	講		2	○				
	基礎力養成Ⅱ		講		2	○					
	公務員・就職試験基礎力養成Ⅰ		講		2		○				
	公務員・就職試験基礎力養成Ⅱ		講		2		○				
	公務員・就職試験基礎力養成Ⅲ		講		2		○				
	公務員・就職試験基礎力養成Ⅳ		講		2		○				
	公務員・就職試験対策Ⅰ		講		2			○			
公務員・就職試験対策Ⅱ	講			2			○				
特殊科目	特殊共通講義Ⅰ	講		[1]	○						
	特殊共通講義Ⅱ	講		[2]	○						
	特殊共通講義Ⅲ	講		[4]	○						
留学認定科目	海外研修Ⅰ			2	海外短期研修						
	海外研修Ⅱ			2							
	外国事情Ⅰ			2	協定大学との交換留学						
	外国事情Ⅱ			2							
	外国事情Ⅲ			2	海外大学への私費留学						
	外国事情Ⅳ			2							
合計				10	142						

【授業形態】講…講義、演…演習、実…実験・実習・実技  
 単位数欄が [ ] の特殊科目は、講義題目・担当教員が異なるものであれば、複数個の履修が可能な科目である。

## 6. 授業科目表

(人間生活科学部 教育保育学科)

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		卒業に必要な単位数	開講学年				保育士資格取得に必要な単位数	幼免一種取得に必要な単位数	小免一種取得に必要な単位数
				必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次			
共通科目	情報	情報リテラシー	演	2			○					●	◆
		情報入門	演	2			○						
		情報基礎Ⅰ	演	2			○						
	語学	英語コミュニケーション	演	2			○					●	◆
		英語リーディング	演	2			○						
		英語ライティング	演	2			○						
		トピック対策英語Ⅰ	演	2			○						
		トピック対策英語Ⅱ	演	2			○						
		中国語入門	演	2			○						
		中国語初級	演	2			○						
		中国語中級	演	2					○				
		コリア語入門	演	2			○						
		コリア語初級	演	2			○						
		ポルトガル語入門	演	2			○						
		ベトナム語入門	演	2			○						
		スペイン語入門	演	2			○						
		健康スポーツ	健康生活と生涯スポーツ	講	2							■	●
	生涯スポーツ実習Ⅰ		実	1							□ 1		
	生涯スポーツ実習Ⅱ		実	1							□ 1		
	文化と社会	多様な言語の世界	講	2				○					
		文学と現代	講	2				○					
		アジアの中の思想	講	2				○					
		アートと現代社会	講	2				○					
		犬山学入門	講	2				○					
		地理学Ⅰ(地誌を含む。)	講	2				○					
		地理学Ⅱ	講	2				○					
		心の科学Ⅰ	講	2				○					
		心の科学Ⅱ	講	2				○					
		日本の文化と社会	講	2				○					
		地域創生と文化遺産	講	2				○					
ジェンダーと現代社会		講	2				○						
人間社会と文化形成		講	2				○						
社会と歴史		国家と法(日本国憲法)	講	2				○				●	◆
	国際社会と法	講	2				○						
	政治の世界	講	2				○						
	歴史との対話	講	2				○						
	情報と社会行動の科学	講	2				○						
	日本史	講	2				○						
	西洋史	講	2				○						

幼権園一種免許 ● ○  
 保育士資格 ■ □  
 小一種免許 ◆ ◇

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		卒業に必要な単位数	開講学年				保育士資格取得に必要な単位数	幼免一種取得に必要な単位数	小免一種取得に必要な単位数
				必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次			
共通科目	社会と歴史	アジア史Ⅰ	講		2			○					
		アジア史Ⅱ	講		2			○					
		アジア史Ⅲ	講		2				○				
		世界の中のアジア	講		2				○				
		交通と社会	講		2				○				
		イスラーム入門	講		2				○				
	自科	生活と数	講		2				○				
		生活の中の科学	講		2				○				
		生命の科学	講		2				○				
	然と	統計学入門	講		2				○				
		科学と人間社会Ⅰ	講		2				○				
	文理ハイブリッド	科学と人間社会Ⅱ	講		2				○				
		科学と人間社会Ⅲ	講		2				○				
		環境共生の探究Ⅰ	講		2				○				
		環境共生の探究Ⅱ	講		2				○				
		生命と倫理	講		2				○				
	全学ゼミナール	全学ゼミナール	演		2				○				
	科	体験探究	体験型プロジェクト	演		4			○				
		目	キ	基礎力養成Ⅰ	講		2			○			
	基礎力養成Ⅱ			講		2			○				
	ヤ		公務員・就職試験基礎力養成Ⅰ	講		2				○			
			公務員・就職試験基礎力養成Ⅱ	講		2				○			
			公務員・就職試験基礎力養成Ⅲ	講		2				○			
			公務員・就職試験基礎力養成Ⅳ	講		2				○			
リ	公務員・就職試験対策Ⅰ		講		2					○			
	公務員・就職試験対策Ⅱ		講		2					○			
ア	キャリア支援講座Ⅰ	講		2					○				
	キャリア支援講座Ⅱ	講		2					○				
群	特殊科目	特殊共通講義Ⅰ	講		[1]			○					
		特殊共通講義Ⅱ	講		[2]			○					
		特殊共通講義Ⅲ	講		[4]			○					
	留学認定科目	海外研修Ⅰ			2				海外短期研修				
		海外研修Ⅱ			2								
		外国事情Ⅰ			2				協定大学との交換留学				
		外国事情Ⅱ			2								
	科目	外国事情Ⅲ			2				海外大学への私費留学				
		外国事情Ⅳ			2								
合計				4	134	14単位以上					14単位以上	14単位以上	14単位以上

単位数欄が [ ] の特殊科目は、講義題目・担当教員が異なるものであれば、複数個の履修が可能な科目である。

必修 ●      選択必修 ○  
 幼稚園一種免許 ■      保育士資格 □  
 小一一種免許 ◆

## 6. 授業科目表

(人間生活科学部 管理栄養学科)

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		開講学年				栄養士	管理栄養士	監視員	食品衛生	フードスペシャリスト	教職	卒業単位数	修得数	
				必修	選択	1	2	3	4									
共通	情報	情報リテラシー	演	2		○												
		情報入門	演	2		○												
		情報基礎Ⅰ	演	2		○												
	語学	英語コミュニケーション	演	2		○												
		英語リーディング	演	2		○												
		英語ライティング	演	2		○												
		トピック対策英語Ⅰ	演	2		○												
		トピック対策英語Ⅱ	演	2		○												
		中国語入門	演	2		○												
		中国語初級	演	2		○												
		中国語中級	演	2				○										
		コリア語入門	演	2		○												
		コリア語初級	演	2		○												
		ポルトガル語入門	演	2		○												
		ベトナム語入門	演	2		○												
スペイン語入門	演	2		○														
科目	健康スポーツ	健康生活と生涯スポーツ	講	2		○												
		生涯スポーツ実習Ⅰ	実	1		○												
		生涯スポーツ実習Ⅱ	実	1		○												
	文化と社会	多様な言語の世界	講	2				○										
		文学と現代	講	2				○										
		アジアの中の思想	講	2				○										
		アートと現代社会	講	2				○										
		犬山学入門	講	2				○										
		地理学Ⅰ(地誌を含む。)	講	2				○										
		地理学Ⅱ	講	2				○										
		心の科学Ⅰ	講	2				○										
		心の科学Ⅱ	講	2				○										
		日本の文化と社会	講	2				○										
		地域創生と文化遺産	講	2				○										
		ジェンダーと現代社会	講	2				○										
群	社会と歴史	人間社会と文化形成	講	2			○											
		国家と法(日本国憲法)	講	2		○												
		国際社会と法	講	2				○										
		政治の世界	講	2				○										
		歴史との対話	講	2				○										
		情報と社会行動の科学	講	2				○										
		日本史	講	2				○										
		西洋史	講	2				○										

必修を含め16単位以上修得

科目群	区分	科目	授業形態	単位数		開講学年				栄養士	栄養士	管理栄養士	監視員	食品衛生	フードスペシャリスト	教職	卒業単位	修得数
				必修	選択	1	2	3	4									
社会と歴史		アジア史Ⅰ	講		2			○										
		アジア史Ⅱ	講		2			○										
		アジア史Ⅲ	講		2			○										
		世界の中のアジア	講		2			○										
		交通と社会	講		2			○										
		イスラーム入門	講		2			○										
共通科目	科学と自然	生活と数	講		2			○										
		生活の中の科学	講		2			○										
		生命の科学	講		2			○										
		統計学入門	講		2			○										
	文理ハイブリッド	科学と人間社会Ⅰ	講		2			○										
		科学と人間社会Ⅱ	講		2			○										
		科学と人間社会Ⅲ	講		2			○										
		環境共生の探究Ⅰ	講		2			○										
		環境共生の探究Ⅱ	講		2			○										
		生命と倫理	講		2			○										
	全学ゼミナール	全学ゼミナール	演		2			○										
		体験型プロジェクト	演		4			○										
キャリア	基礎力養成	基礎力養成Ⅰ	講		2	○												
		基礎力養成Ⅱ	講		2	○												
		公務員・就職試験基礎力養成Ⅰ	講		2			○										
		公務員・就職試験基礎力養成Ⅱ	講		2			○										
		公務員・就職試験基礎力養成Ⅲ	講		2			○										
		公務員・就職試験基礎力養成Ⅳ	講		2			○										
		公務員・就職試験対策Ⅰ	講		2					○								
		公務員・就職試験対策Ⅱ	講		2					○								
	キャリア支援講座	キャリア支援講座Ⅰ	講		2					○								
		キャリア支援講座Ⅱ	講		2					○								
特殊科目	特殊共通講義Ⅰ	講		[1]	○													
	特殊共通講義Ⅱ	講		[2]	○													
	特殊共通講義Ⅲ	講		[4]	○													
留学認定科目	海外研修Ⅰ			2				海外短期研修										
	海外研修Ⅱ			2				海外短期研修										
	外国事情Ⅰ			2			協定大学との交換留学											
	外国事情Ⅱ			2			協定大学との交換留学											
	外国事情Ⅲ			2			海外大学への私費留学											
	外国事情Ⅳ			2			海外大学への私費留学											
計					10	148												16単位以上

単位数欄が [ ] の特殊科目は、講義題目・担当教員が異なるものであれば、複数個の履修が可能な科目である。

## 28・24 名古屋経済大学全学教育推進センター規程

制 定 平成 30 年 4 月 1 日

最終改正 令和 3 年 2 月 3 日

(設置)

第 1 条 名古屋経済大学(以下、「本学」という。)に全学教育推進センター(英語名 University Education Center、以下、「本センター」という。)を設置する。

(目的)

第 2 条 本センターは、学長を中心とした、大学全体における教学マネジメント体制を確立し、各学部の教育活動について、教育課程の編成に関する全学的な方針の策定・検証・評価を行うことにより、本学教育の充実及び発展を図ることを目的とする。

2 本センターは、本学学士課程における、共通科目群、全学教育で行う教育(以下、「共通科目」という。)に関する企画、立案及び実施をも行う。

(業務)

第 3 条 本センターは、前条の目的を達するため、各学部における卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を踏まえた点検・評価(以下、単に「点検・評価」という。)を活用し、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育課程の編成に関して、全学的な方針の策定、検証、評価等を行うこと
- (2) 全学的な教育課題及び教育方法に係る行事の企画、立案及び実施に関すること
- (3) 共通科目の基本理念、教育目標等に関すること
- (4) 共通科目の企画、立案及び実施に関すること
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な事項

(組織)

第 4 条 本センターは、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 教学担当副学長
- (3) 全ての学部長
- (4) センター長 1 名
- (5) 副センター長 1 名
- (6) センター員 若干名

2 センター長、副センター長及びセンター員は、教育課程の編成に関する全学的な方針の策定について広い見識を有する本学教職員から、学長が委嘱する。

(センター会議)

第5条 本センターは、センター会議において、第3条の業務を決定する。

- 2 センター会議は、前条第1項に掲げる全ての者で構成する。
- 3 学長は、有益と認める者がセンター会議に出席することを許すことができる。
- 4 センター会議は、毎年度、各学部における点検・評価を活用し、すべての学部の教育活動について、検証及び評価を行う。
- 5 センター会議は、学長が招集する。
- 6 センター会議は、第4条第1項第1号から第4号に掲げる全ての者（これらの者の職務代行者が置かれている場合は、その者）が出席しなければ、成立しない。
- 7 センター会議の議事は、学長を含めた出席者の過半数で決する。

(センター長等)

第6条 センター長は、本センターの事務を統括し、センター会議の決定を実行するとともに、必要な連絡調整を行う。

- 2 副センター長は、センター長の名を受けて、事務を行い、センター長に事故あるときは、これを代行する。

(会計)

第7条 センターの運営費は、名古屋経済大学の年間予算その他をもってあてる。

- 2 予算及び決算は、センター会議において出席者の過半数で決する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、本センターの運営に関し必要な事項は、センター会議において定める。

**附 則**

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、令和3年2月3日から施行する。

## 28・24 名古屋経済大学全学教育推進センター規程

制 定 平成 30 年 4 月 1 日

最終改正 令和 3 年 2 月 3 日

(設置)

第 1 条 名古屋経済大学(以下、「本学」という。)に全学教育推進センター(英語名 University Education Center、以下、「本センター」という。)を設置する。

(目的)

第 2 条 本センターは、学長を中心とした、大学全体における教学マネジメント体制を確立し、各学部の教育活動について、教育課程の編成に関する全学的な方針の策定・検証・評価を行うことにより、本学教育の充実及び発展を図ることを目的とする。

2 本センターは、本学学士課程における、共通科目群、全学教育で行う教育(以下、「共通科目」という。)に関する企画、立案及び実施をも行う。

(業務)

第 3 条 本センターは、前条の目的を達するため、各学部における卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を踏まえた点検・評価(以下、単に「点検・評価」という。)を活用し、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育課程の編成に関して、全学的な方針の策定、検証、評価等を行うこと
- (2) 全学的な教育課題及び教育方法に係る行事の企画、立案及び実施に関すること
- (3) 共通科目の基本理念、教育目標等に関すること
- (4) 共通科目の企画、立案及び実施に関すること
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な事項

(組織)

第 4 条 本センターは、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 教学担当副学長
- (3) 全ての学部長
- (4) センター長 1 名
- (5) 副センター長 1 名
- (6) センター員 若干名

2 センター長、副センター長及びセンター員は、教育課程の編成に関する全学的な方針の策定について広い見識を有する本学教職員から、学長が委嘱する。



(センター会議)

第5条 本センターは、センター会議において、第3条の業務を決定する。

- 2 センター会議は、前条第1項に掲げる全ての者で構成する。
- 3 学長は、有益と認める者がセンター会議に出席することを許すことができる。
- 4 センター会議は、毎年度、各学部における点検・評価を活用し、すべての学部の教育活動について、検証及び評価を行う。
- 5 センター会議は、学長が招集する。
- 6 センター会議は、第4条第1項第1号から第4号に掲げる全ての者（これらの者の職務代行者が置かれている場合は、その者）が出席しなければ、成立しない。
- 7 センター会議の議事は、学長を含めた出席者の過半数で決する。

(センター長等)

第6条 センター長は、本センターの事務を統括し、センター会議の決定を実行するとともに、必要な連絡調整を行う。

- 2 副センター長は、センター長の名を受けて、事務を行い、センター長に事故あるときは、これを代行する。

(会計)

第7条 センターの運営費は、名古屋経済大学の年間予算その他をもってあてる。

- 2 予算及び決算は、センター会議において出席者の過半数で決する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、本センターの運営に関し必要な事項は、センター会議において定める。

**附 則**

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、令和3年2月3日から施行する。

大学等名	名古屋経済大学
教育プログラム名	名古屋経済大学データサイエンス教育プログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

## 取組概要

# 名古屋経済大学データサイエンス教育プログラム 概要



## プログラムの目的

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する能力を育成すること

## 本プログラムで身につけることができる能力

- (1) データサイエンスやAIについての理解を深め、そこから生み出される新たな価値を説明できる能力
- (2) データを守り、それを扱ううえで必要な留意事項や統計学の基礎を学び、それらを活用できる能力
- (3) 与えられたデータに対して基本的なデータ分析をおこない、統計的推測を得るという基礎的な能力

## 修了要件

対象の2科目「情報リテラシー」と「統計学入門」を履修し単位修得すること

科目名	単位数	概要
情報リテラシー	2	データサイエンスおよびAIについて、実例を通じて基本的な活用方法と留意事項を学ぶ
統計学入門	2	データの扱い方や読み解き方の基礎となり、幅広い分野で必要不可欠な統計学を演習により身につける

## 実施体制

全学教育推進センターを中心として学務総合センター等が本プログラムを改善・進化させるための体制を構築しています。授業アンケート等をもとに自己点検をおこない、履修・修得状況についても確認、改善をおこなっています。